

家庭学習応援だより

第1号

今年度が始まり1か月が経ちました。お子様は、新学年を順調にスタートできているでしょうか。今年度の試みとして、学校だより「上東っ子」や学年のおたより(学年通信)など、各種便りに加え、保護者向けの「家庭学習応援だより」を発行することにしました。

というのも、よく子どもの学力向上のポイントは、「子供の学ぶ意欲と習慣」、「教師の熱意と指導力」、「家庭の理解と協力」の3つの柱と言われます。

効果的な家庭学習のためには、授業で学習したことと関連付けながら家庭学習をすることが重要です。このお便りは学校と家庭とで学習面から手を取り合いながら、子どもの確かな学力の育成を目的で発行しております。

家庭学習と宿題の違いって？



家庭学習と宿題って、何が違うの？と思われがちですが、家庭で行う学習は、2つに大きく分けることができます。

1つは、宿題です。宿題は、内容や評価等において取り組みへの責任が伴うものと言われます。言い換えると、やる内容があらかじめ決まっていて、その取り組みが評価されるもの。例えば、担任の先生：「漢字ドリルの23ページを漢字ノートに10回ずつ練習して、明日までに提出してください。」みたいなものです。宿題はさらに、3つの種類に分けることができます。下図をご覧ください。学校ではこれらを組み合わせて宿題を出していきます。宿題の最大のねらいは、家庭での学習の習慣を身に付けさせることです。もちろん、学校で学習した内容の理解を深めたり、学習することの充実感を味わったりすることも大切なねらいです。

それに対して、もう1つは、家庭学習です。家庭学習とは、子供が学ぶ力と学ぶ喜びを味わおうと自ら取り組み、内容も、取り組むか否かも含めて自由度のあるものです。例えば、音読していたら、意味の分からない言葉があったので、家にある辞書で調べて、ノートにメモした、などがそうです。家庭学習の利点は、自分の理解の速度に合わせて、繰り返し学習ができることです。また、自分の特性や個性を伸ばす学習ができることにあります。

一斉同一型

同一の質と量の宿題を全員に

- ・漢字練習
- ・音読
- ・計算問題の演習



一斉個別型

質や量を個人差に応じたもの

- ・語句の意味調べ
- ・個に応じたプリント
- ・テストの間違い直し



自由選択型

宿題の例を示し、自分で選択

- ・興味のある本を読む
- ・ニュースを5W1Hでまとめる
- ・スポーツや楽器の練習
- ・苦手科目に取り組む

※ 家庭学習の4つのポイントは、①生活のリズムを整え、②計画的に、③雰囲気大切に、④努力を認め励ます、です。

家庭学習を充実させるポイント



学校では、子供が学習の楽しさを実感できる授業を展開できるよう努め、「家でも学習したい」という意欲をもたせるようにしたいと考えています。

よく、子供たちは「先生、昨日の授業でやった〇〇を、家でもやってみました。」とか、「先生、お母さんに算数の授業でやった△△を教えてもらったら、できるようになりました。」とか、「先生、休みの日にお父さんとパソコンで□□しました。」などと、家庭での学びを話すことがあります。学校での学習が話題になっていることが感じられ、まさに、「学校の授業と家庭学習がつながった」場面といえます。

さて、こうしたつながりをもっと増やしていくために知っておきたい家庭での働きかけのポイントを紹介します。「これは！」と思うものをぜひご家庭でもお試しください。

「どうだった？」ではなく、具体的に質問する

- 子供の思考力をきたえるには、親子でたくさん会話をするのが大切です。食卓でも「学校どうだった？」と漠然とした質問ではなく、「どんなことを新しく習ったの？お母さんにも教えて。」など具体的な質問をすれば、会話も広がります。

ときには、子どもに選択権をゆだねる

- 子供の思考力や表現力は、成功や失敗を重ね、試行錯誤しながら身につくものです。失敗しないよう、何でも先回りして支えてあげるよりも、子供が「自分でやりとげた」と思えるような見守り方をしてみてもいいでしょうか。

「できない」ことを批判しない

- 社会が複雑になり、価値観が多様化し、これまで正しいとされていたことが次々に入れ替わる社会において、一つの考えにこだわらず、できることを伸ばし、自信をつけることが社会を生きる支えになってくると思います。親が「こうあってほしい。」という理想をあまり押し付けず、お子様のありのままのよさを大切にしてください。



目指す家庭学習の姿

家庭学習を、「主体的学習者」を育てる機会と考え、低学年から高学年へ、また小学校から中学校へと、子供が成長するにつれて、家庭学習の内容が、宿題から自主学習(自分から進んで課題を見つけ、学ぶこと、または、自分で内容を探し、自分のために自分から進んで行う学習)に移行していくことが理想といえます。

そのため、学校では意図的、計画的な学習指導を行っていきます。まずは、宿題をきっかけに家庭での学習の習慣化を図り、ご家庭と連携しながら、お子様の「自ら考え、行動する」力を育てていきたいと考えています。

おわりに

「家庭学習応援だより」では、低学年、高学年のお子様をもつご家庭にかかわらず、家庭で役に立つ情報をできるだけ紹介していきたいと考えています。時には感想も含め、保護者の生の声をお聞かせいただけると幸いです。「先生、記事の内容が堅苦しいよ。」とか、「ほかのご家庭では、どんなこと(勉強)しているのかな？」などでも構いませんので、担当の川島までお伝えください。また、より満足いただけるよう、アンケートを行うことがあるかと思います。その際は、ご協力よろしく申し上げます。

次号からは、担任や保護者の生の声を交えながら、発行したいと思えます。